

松陵

秋田県立能代高等学校同窓会
事務局

〒016-0184 能代市高城2-1
能代高等学校内
TEL 0185-54-2230
FAX 0185-54-2231

題字は神馬前会長

同窓会員の皆様へ



同窓会長 田中 仁 純

(第二十五期)

能代高校同窓会の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。今年は昭和三十六年の「まごころ国体」から四十六年ぶりの「秋田わか杉国体」が開催されました。秋晴れのもと天皇・皇后両陛下ご臨席をおおぎ九月二十九日開会式が行われました。能代市・山本郡はバスケットと軟式野球の会場となり連日の熱戦と地元声援に盛りあがりしました。わけでも能代工業の地元での全国優勝五十八回目を飾ることができました。

さて、同窓会事務局の件ですが、体制作りも着々と整いつつあります。十月一日をもって、母校の正面入口に「同窓会事務局」の看板を掲げました。ささやかなことですがこれが在校生の同窓会への意

識発揚につながり、同窓会役員はじめ幹事等、より多くの会員による運営の端を拓くことなればと感じています。母校はここに来て校是「文武両道」に向って大いに意気が上っています。生徒に「夢と志」を持たせたいとする井上校長の「Will Project」の提唱も着実に浸透しつつあり、同窓会の持つ組織を動員してさらに大きく飛翔する母校のために活用出来ればと思っていますところであります。同窓会員の限らないご協力を切にお願い申し上げます。

着実な変化

校長 井上 高 廣



同窓会の皆様には常日頃から物心両面に涉りご支援を頂き誠に有難うございます。各支部の同窓会に出席し、卒業生の皆様のご活躍に能代高校の歴史と伝統の重みを実感しております。本部同窓会は、ホームページが充実し、学校の玄関には同窓会事務局の看板が掲げられ、担当の方が定期的に訪れて業務を遂行しており、田中会長を中心に組織の充実ぶりが伺えます。

連続の東北大会出場を果たし、近い将来皆様のご期待に応えてくれるものと思います。また、伝統の体操部、柔道部もインターハイ、国体に出場し活躍しております。私は、毎日昼休みに生徒と面談をしています。能力的にも人間的にも魅力に満ちた生徒が沢山いて、このような生徒たちと出会えた幸せを感じて暮らしています。この持てる能力・魅力を最大限伸ばしてあげるのが我々教員の務めと考えています。昨年九月月をかけて本校の将来構想を検討し、今年「Will Project」として立ち上げ、活動を始めました。本校の生徒から首相やノーベル賞受賞者を出したい。地元秋田県や能代を活性化させるような人材を育てたい。壮大な夢の達成に、多くの同窓生のご協力が必要です。依頼がありましたら心からお願いいたします。

第であります。最後になりましたが、同窓会皆様のご健勝と

ご活躍を祈念致しまして挨拶と致します。

平成20年 能代高等学校同窓会 新年祝賀会のご案内

- ◎日時 平成二十年一月二十五日(金)
- ・講演会 午後五時三十分
- ・講師 佐藤 了氏(三十七期秋田県立大学教授)
- ・演題 「自然共生型社会への胎動」
- 「秋田県の花運動の現状と今後の課題」(仮)
- ◎会場 料亭「金勇」(能代市柳町)
- ◎会費 四、〇〇〇円(当日持参)
- ◎当番幹事は三十七期・四十七期です。参加申し込みは、各期幹事、または同窓会事務局へ連絡してください。
- 同窓会事務局 電話(〇一八五)五四―二三三〇
(能代高校内) FAX(〇一八五)五四―二三三一

恩師探訪

能代高校において教鞭をとられた先生方に当時の思い出を綴っていただく「恩師探訪」のコーナー。今回は須田 薫先生に筆を振るっていただきました。

無窮の時となる樽子山

(昭和三十九年七月一日〜同五十二年三月三十一日)

須田 薫先生

須田薫先生は現在、中国 河北大学名誉教授・特別客座研究員 中国 天津外国語大学客員講師をしておられます。



昭和40年春の国語科メンバー
右から嶋田主任、山田、大山、須田、高橋、白鳥の先生方

とつては忘れ得ぬ「無窮の時」となっている。感謝。

赴任、即日時間割を与えられ、農高でのんびりして来た割が当たったようなものだ。忘れ得ない二年E組(国立理系組)の連中からの、農高からの教師という誤か、質問責めに合う。あれこそイジメというのか。高飛車に彼等の質問に向かっていたものだ。一年生で放課後の補習もなし、一年生の希望者を募り「源氏物語」の輪読会をやり、その連中から一年間の終いということか広辞苑を差し出され、それを今でも使っている。

クラス担任のことで言えば、先の生徒が三年生になった時、国立文系型を持つことになり受験時に国立大には半数ほど、あとはほとんど私立大の早慶・立命館・同志社と志望が固まり一生徒と面談の上で志望の動機が理に通っているの、その方向を強力に押し進め合格を見たものだ。ところが進路指導主事から「須田は能高には向かない農高に帰ったら」と職員室で声高に言われ、沈黙に徹したが、戒めにしては「進学校ならではの弊害のなせる暴言になるのではな

い出は応援団係として硬軟野球部がお陰で軟式では藤井寺に、硬式では甲子園にと能高ならではの榮譽に浴し、応援団も喜びに浸ったものである。

硬式野球部の太田久監督には応援団にも細心の配慮をされ世話を戴き、去りてなお厚く徳を感じている。特に、公舎が隣ということもあり有難いことでした。

国語科にしても温厚な嶋田主任を柱にして、大山先生が中に入りよく纏まっていた。感謝。

とまれ、能高では三度の担任に恵まれ、三度目に三年間担任した工藤真由美が能高第一の東大合格。拍手喝采に湧いた慶事もある。あれやこれや卒業生との交流は絶えない。毎年のように誰かがやつてくるのも能高無窮の心が沸き立つ。

生徒から依頼されての仲間ながら、十六組の拳式に恵まれたのも無窮に繋がる。

今は高齢者とはいえ、故郷の象潟町史編纂完了。にかほ市郷土史研究会の要として元気でやっている。在校生、卒業生諸君よ、時来たれば鉄も金となる。松陵健児の魂を生かすべく良き伝統づくりに邁進せよ。



校門を入り、古色蒼然たる樽子山の前庭と校舎

同窓生から

素敵な笑顔

加賀 麗子 (二十七期)



ついこの間私は、五十年ぶりで高校の同期会に出席しました。私にとつては初めての参加で、何方に会えるかと、期待と不安で胸が張り裂けそうでした。

もともと、小学校や中学で一緒だった方もいて、全く見知らぬ人ばかりではなかったのです。でも、心配無用でした。

話を重ねるうちに、誰もが高校生だった頃の顔になり、一気に時空を越えてしまうから、不思議なものです。私は年甲斐もなく暫し、見とれてしまいました。

それぞれの人生を、能代高校の卒業生という自信と誇りをもつて歩まれたのでしょうか。笑顔がそう語っていました。

男性も女性も姿格好は、お世辞にも若いとは言えませんが、動作が若やいでいて、どの人も輝いていました。素敵に年を重ねられて、とても羨ましいと思つたほどです。

最後に、皆さんで肩をくんで歌つた応援歌、これぞ能代高校生と、何だか、胸が一杯になりました。

しゃべって、笑って、あつと言う間に過ぎた時間の短かったこと、とても残念でした。新制九期の皆さん、いつか

たお会いしましょう。それまでお元気で。

定年を迎える私たち 団塊の世代

金澤 誠一 (三十七期)



私たちはいわゆる団塊の世代といわれ、小中学校では五十人を超えるクラスで、後ろの壁まで隙間がないくらい机が並んでいた。中学校では九クラスあった。一五〇〇人が在学していたことになる。

最近、能代に帰ったら、母校第二小学校の統廃合を知った。私たちが通っていたのはまだ古い木造の校舎で、廃校になる新しい校舎には、私たちの子どもが通うのだといわれ寄付を募っていた記憶がある。その校舎には私の子どもは通うことはなかった。団塊の世代の多くが進学や就職のために大都会に出たのである。私は九年前に千葉から京都に移り住んでいる。

私たち団塊の世代はちょうど定年を迎える歳である。私の大学の定年は七十歳であるためまだ十年は働けるのであるが、そろそろ能代が恋しくなってきた。最近、機会ある毎に帰ることも多くなってきたが、帰る度に実家のある畠町が寂しくなっている。かつて賑わいをみせた畠町銀座も、シャッターがおりていてお店が目立つ。アーケードまで取り外され、裸の街になつたような印象を受ける。

団塊の世代の地域デビューとかふるさとUターンとかいわれているが、団塊の世代の高齢化

同窓会会計報告

平成18年度分(平成18年9月22日より平成19年9月18日まで)

I. 経常費

収入の部

項目	18年度予算額	18年度決算額	比較増減	摘要
1 繰越金	2,168,263	2,168,263	0	前年度より繰り越し
2 人会金	2,001,600	1,994,400	▲ 7,200	7,200円×277名
3 会費	2,000,000	2,000,000	0	
4 寄付金	0	0	0	
5 その他	15	30,524	30,509	CD・名簿等販売・旅費返金・利息等
合計	6,169,878	6,193,187	23,309	

支出の部

項目	18年度予算額	18年度決算額	比較増減	摘要
1 会議費	400,000	240,789	▲159,211	総会・新年会補助、各支部会出席費用
2 慶弔費	20,000	0	▲ 20,000	
3 卒業関係費	436,880	443,542	6,662	人会記念品、人会金を基金へ
4 通信印刷費	2,100,000	2,108,585	8,585	悠陵発送、案内はがき、新聞広告
5 事務費	10,000	0	▲ 10,000	
6 寄付金	1,000,000	1,000,000	0	能代高校教育振興会へ
7 事業費	1,000,000	964,767	▲ 35,233	青春の碑改修・修葺式PC機器・HP利用料等
8 基金	1,000,000	1,000,000	0	基金3へ
9 予備費	202,998	0	▲202,998	
合計	6,169,878	5,757,683	▲412,195	

《差引残高》

収入 支出 差引残高
 6,193,187 - 5,757,683 = 435,504 (次年度へ繰り越し)

II. 基金

種類	平成18年度元金	平成19年度元金	摘要
1 秋田銀行積立	29,381,053	29,784,872	含人会金332,400円 (1,200円×277名)
2 秋田銀行定期	6,741,630	6,760,720	
3 秋田銀行定期		1,000,000	
合計	36,122,683	37,545,592	

同窓会経常費予算

平成19年度分

(I) 収入

項目	19年度予算額	18年度予算額	比較増減	摘要
1 繰越金	435,504	2,168,263	▲1,732,759	
2 人会金	1,684,800	2,001,600	▲ 316,800	7,200円×234名
3 会費	2,000,000	2,000,000	0	
4 寄付金	0	0	0	
5 その他	696	15	681	預金利息など
合計	4,121,000	6,169,878	▲2,048,878	

(2) 支出

項目	19年度予算額	18年度予算額	比較増減	摘要
1 会議費	250,000	400,000	▲ 150,000	総会等補助、各支部会出席費用
2 慶弔費	20,000	20,000	0	電報
3 卒業関係費	380,000	436,880	▲ 56,880	人会記念品、人会金の一部を基金へ
4 通信印刷費	2,100,000	2,100,000	0	会報印刷・発送費、はがき、新聞広告
5 事務費	40,000	10,000	30,000	事務用品、事務局員手当
6 寄付金	1,000,000	1,000,000	0	能代高校教育振興会へ
7 事業費	280,000	1,000,000	▲ 720,000	インターネット利用料 HP利用料
8 基金	0	1,000,000	▲1,000,000	
9 予備費	51,000	202,998	▲ 151,998	
合計	4,121,000	6,169,878	▲2,048,878	

岩 谷 修 一
(五十七期)

あれから二十年

に合わせるように、年金支給開始年齢の引き上げや年金額の削減、所得税の老年者控除廃止や公的年金控除削減、介護施設や医療機関でのホテルコストや給食費実費の徴収が実施され、そして後期高齢者医療制度の導入が図られている。

能代高校を卒業して二十年が経ちます。通勤の途中で能代高校の前を通ると、当時のことがいろいろと思い出されます。毎日の授業、定期試験、部活動と忙しい日々でした。特に授業についていくのは大変で、毎

日が必死でした。しかし、「学ぶ楽しさ」「学問のおもしろさ」を知ったのは高校三年間のおかげだと今は思います。朝、新聞を広げ、スポーツ欄を見るとき、反射的に母校の試合結果を探してしまいます。二十年前私は、バスケットボール部に所属していました。部活動の日々も今の自分を大きく支えてくれています。練習後、仲間と語り合った部室のある廊下は今もきつと変わっていないと思います。

年月を重ねていくたびに、私の母校への思いは強くなっていると思います。これから、ますます我が母校が発展し、活躍されることを心からお祈りしております。

或る断片的回想

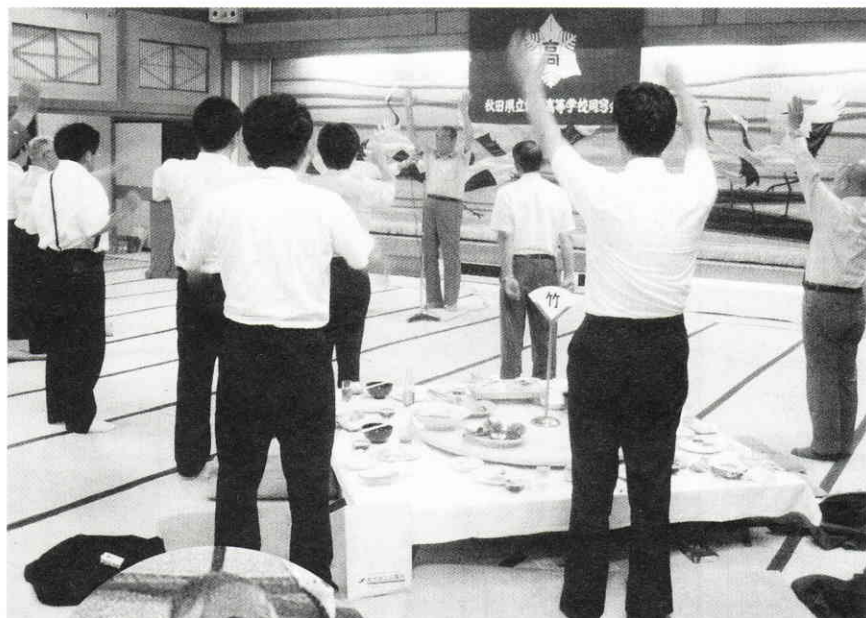
東京在住
小 野 立
(六十七期)

能代の季節で云へば、寒さに向ふ今時分が一番好きだ。第(はうき)で落ち葉を掃くときに、周りから始めて段々真ん中へ纏(まと)めてゆくやうに、夏のうちに茂りすぎた生活の枝葉を刈り込んで、少しづつ、小さくしてゆく。蒲団を被り、読みさしの本を

開く。抄(はか)が行って深更に及ぶ。硝子戸越しの刺すやうな冷気が、耳と手だけを冷やす。翌朝は早目に起き出してストーヴをたき、茶(ちや)や(わん)へ湯をかける。梅漬(うめ)をあてに茶をすする。つましきは、どんな場合も美しい。

てゆきぎうなぐらるに、深く青かった。早春の田に落穂の残りを食(は)んでゐた数へきれない程の鴈(がん)や白鳥も、相染森、檜山辺の万緑も、日ごとに色をかけた白神の山並みも、さうしてあの吹雪も。詩歌の種にならぬものなど、何一つなかった。故郷を去ることが、厭(いや)でならなかった。モウ東京ハ、沢山ダ。さう心の裡(うち)につぶやかずに済む日は、恐らく来ない。





万歳三唱



総会での会長挨拶

平成19年度 同窓会 総会報告

平成十九年度同窓会総会は、九月二十一日（金）、例年のとおり料亭「金勇」で四十五名の出席で行われました。次第に従い故人への黙祷の後、田中仁純会長が挨拶し、その中で同窓会員（教職員ではなく）による事務局の運営について話されました。井上高廣校長は同窓会の学校に対する協力に感謝し、能代高校で本年度から本格的に開始された事業Will Projectについて説明し協力を求められました。議事に入り、会務報告、会計決算、本年度予算（案）が提案され満場一致で承認されました。

懇親会は当番幹事三十七期の進行で行われました。多忙の中駆けつけた県議会議員の能登祐一氏が来賓として挨拶し、教育の現状について憂慮し、今後の学校教育の厳しさなどについて述べられました。乾杯の音頭は遠来の東京同窓会監査役、山懸輝輔氏（二十四期）にお願いしました。宴会の中でいつものとおり参加者の多い期の方々に「東雲羊羹」が贈られました。それぞれが昔話をしたり、世代を越えて話の花を咲かせていたグループもありました。万歳三唱は、二十一期の佐藤雄氏氏が元氣あふれる発声で行い懇親会を終了し、余力のある方々が三々五々に二次会に散りました。

尚、東京同窓会の方から能代高校の事業、主にWill Projectについて意見調整をしたいとの申し出があり、総会の当日、田中同窓会長、東京同窓会長太田勝治氏、同監査役山懸輝輔氏、同窓会役員、学校側（校長、教頭）とで約一時間話し合いました。

学校では計画的に事業を推進していますが、同窓会員にはよくわからないこともあり、今後、学校と同窓会が連絡を密にし、同窓会として協力できることがあれば対応していくことになりました。

その後、同窓会のホームページで「校友時報」〈Will Project社会人講話特集号〉を紹介しています。

「同窓会事務局」設置について

これまで本部の事務局の運営は主に能代高校の教職員が担当していましたが、教職員以外の同窓会員も関与しなければならぬことになり、能代高校内の一室に同窓会事務局を十月一日に設置しました。事務局員は下記の四名が担当します。これからは教職員と二人三脚で運営していくこととなります。

各月、三日、十三日、二十三日、午前十時～十二時、事務局員、誰かが事務局にいます。（但し、土・日曜日、祭日、休校日は不在）

これを機会に同窓会役員も役割分担をして運営に当ることになりました。（下記の表）

事務局の設置に当り、校舎の玄関前に看板を掲げ、これまでなかった校名の看板も同窓会で設置しました。



能代高校同窓会事務局

秋田県立能代高等学校

事務局

事務局長

松谷 高橋 宏健
小林 勝 研平

広報担当

浅田 嘉美
工藤 孝行
大山 昇一
松坂 健

役員職務分担

財務担当

太田 統良 隆研
高橋 田 誠良
塚本 藤田 勝
柴田 寛 彦嗣
佐藤 浩 研平
柴田 悦子

平成十九年度
部活動
大会結果

今年度も能代高校生は、文武両道の達成を目指して各分野で活躍を示しました。今年度の運動部・文化部の活動状況の概略をご報告いたします。

東北大会（体育局）

【体操部】

男子団体 五位
男子個人 二位
二位 栗林俊樹（三年）
九位 平元拓翔（二年）
三九位 木村学人（二年）
一八位 山田貴大（二年）

【陸上競技部】

八〇〇M
予選敗退 保坂紗悠里（三年）
走り幅跳 船山美智子（一年）
予選敗退

【柔道部】

女子個人 七八kg超級
二位 椎名香純（三年）
七八kg級 一回戦敗退 鳴海美帆（三年）
九〇kg級 一回戦敗退 加賀 遼（三年）

インターハイ（体育局）

【体操部】

男子団体 三三位
男子個人 二〇四位 栗林俊樹（三年）
八四位 平元拓翔（二年）
二二九位 木村学人（二年）
一四六位 山田貴大（二年）

【柔道部】

女子個人 七八kg超級
ベスト16 椎名香純（三年）

全国大会（文化局）

【囲碁・将棋部】

囲碁

予選敗退 松田大輝（三年）
【放送部】
予選敗退 秋林秋乃（二年）

【無線部】

予選敗退

三位 佐藤有早（一年）
【弁論部】
予選敗退 成田圭哉（三年）
松橋彩子（三年）
菊池進太郎（二年）
佐藤亮真（三年）
能登麻美子（三年）
児玉俊介（三年）

全県総合体育大会

【陸上競技部】

男子八〇〇M 八位 児玉直紀
女子八〇〇M 四位 保坂紗悠里
走幅跳 二位 船山美智子

【体操部】

団体優勝（四年連続優勝）
個人 優勝 平元拓翔
二位 栗林俊樹
三位 山田貴大

【男子バスケットボール部】

二回戦 能代98-81金農
三回戦 能代60-92秋田工

【男子バレーボール部】

一回戦 能代0-2秋工
【女子バレーボール部】
一回戦 能代0-2城南

【男子テニス部】

団体ベスト8
二回戦 能代3-0秋工
三回戦 能代2-0秋西
準々決勝 能代0-2合川
個人ベスト16 佐藤・池端

【女子テニス部】

ベスト16
二回戦 能代2-1仁賀保
三回戦 能代0-2大館桂
個人 三回戦 伊藤・大塚

【卓球部】

男子団体 二回戦 能代1-3中央
男子ダブルス 二回戦 斎藤・野呂田
男子ダブルス 二回戦 佐々木・野呂田

【剣道部】

男子団体 一回戦 決勝トーナメント
女子団体 一回戦 能代0-5秋田南
男子個人 予選リーグ敗退
三回戦進出
女子個人 三回戦進出
毛利・清水
二回戦進出
三回戦進出
優勝選手賞 清水岳朗
【柔道部】
男子団体 ベスト8

女子団体 三位
女子個人 優勝 椎名香純
二位 鳴海美帆
三位 橋本 愛

男子個人 三位 加賀 遼
ベスト8 田中悠策
五位 儀大志
長谷川健太
大塚諒太
信太輝介

【サッカー部】

一回戦 能代2-0湯沢
二回戦 能代0-2明桜

【山岳部】

能代A 一一四・五点

【空手道部】

団体男子組手 準優勝
団体女子組手 三位
男子個人 四位 松森雄治
五位 福岡諒太
六位 菅生真衣

女子個人 六位 菅生真衣

【水泳部】

一〇〇M個人自由形 七位 小田島卓也
二〇〇M個人自由形 六位 小田島卓也
二〇〇M個人メドレー 五位 渡部晃平
四〇〇M個人メドレー 四位 渡部晃平
五〇〇M個人自由形 七位 山崎季樹
四〇〇M個人メドレー 八位 工藤 祐

【女子バスケットボール同好会】

一回戦 能代70-59花輪
二回戦 能代42-79大館桂

野球全県大会

【硬式野球部】

◎全県大会
一回戦 能代10-2新屋
二回戦 能代3-2角館
三回戦 能代2-9金農

◎秋季大会

二回戦 能代9-3秋田西
準決勝 能代7-4男鹿工
準決勝 能代0-4大曲工
三位決定戦 能代4-1秋田南

【軟式野球部】

◎全県春季大会
一回戦 能代0-1本荘
◎全国大会県予選
一回戦 能代2-1秋田
準決勝 能代3-0本荘
決勝 能代1-2秋商

◎秋季大会

二回戦 能代0-2秋商

文化部活動

【囲碁・将棋部】

◎全国高等学校囲碁選手権
優勝 松田大輝
◎吹奏楽部
◎全日本吹奏楽コンクール
秋田県 県北地区大会
高校の部 金賞
◎演劇部
◎能代山本地区高校演劇発表会
出場

【放送部】

◎秋田県高等学校
朗読部門 放送コンテスト
優秀賞 秋林秋乃
入選 櫻庭千裕
ラジオドキュメント部門
入選

◎秋田県高校ARDF春季大会

女子団体 優勝
女子個人 優勝 牧野友花
二位 佐々木詩穂
三位 佐藤有早

◎第十回秋田県ARDF大会

女子団体 優勝
女子個人 優勝 牧野友花
二位 佐々木詩穂
三位 佐藤有早
四位 牧野 緑

支部だより



東京同窓会

会長 太田 勝治

去る十月十三日、東京同窓会の総会・懇親会が開催され、母校からは井上校長、太田総務主任、本部同窓会からは田中会長のご出席を賜りました。遠い所、又お忙しい所ありがとうございました。

参加者は昨年より増えて百三十名以上で賑やかに元氣よく行われました。若い同窓生の初参加も多く、若手幹事達の日頃の努力が報われました。

講演会は二十七期の若松正雄氏、イベントでは、尺八奏者の金野鈴道氏（三十八期）と琴奏者の清水靖子氏（三十三期）が素晴らしい演奏をして下さいました。

このように東京同窓会にも多くの優れた才能の持ち主が沢山おられます。これからも、IT技術等を活用して、この才能を発掘して少しでも世の中に広めたいと考えております。



ニッ井能高会

「幹事会模様」

支部長 豊澤 幸夫

総会の日時・会場・持ち方を決めるのが主な幹事会だが、もの一つで片付けられた。後は時の話題が次々と司会者なしの発言リレーだ。先ずは幕を引いたばかりの成年女子バスケット民宿の諸々の裏話だ。爆笑の連続なのだが、国体が地域結束を促し、大型女子選手を吾が孫娘と遇した感が強い。次は国体直前九月七・八日の大水害の件では各地域の情報が時系列に展開される。四十七年の大水害よりは被害は少なかつたといえ、米代川の水位最高記録を十一糎塗り替えた。堤防、上流ダム、情報伝達、避難場など話題になり、「あわや！」と危機を感じた瞬間が語られ、今更戦慄を覚えた。

盃を重ねる毎に蘊蓄有る話が沸騰し、町の隅々まで同窓生の力が生きている様子をみて取った。唯、総会に若い力が集まるかだ。

在青能代高校

同窓会

事務局 榊原 誠

先日同窓会ホームページにアクセスしたところ、恩師先生方の懐かしいお姿を拝見しました。失礼とは思いますが、頭髪の白くなられた方、あの当時と全くお变りのない方等々、大変懐かしうあの頃の自分にもアク

セスした様でありました。

さて近況ですが、平成十五年十一月現在で名簿確認しているメンバーの方は二十九名であります。

平成十四年五月田中会長の御来賓参加をいただいて同窓会総会を開催、平成十五年七月物語者を偲ぶ会と合同で開催以来、事務局担当が在青秋田県人会の事務局長を仰せつかるなど諸事情で現在まで残念ながら開催を見送っております。同窓会ホームページを活用するなり、近いうちに同窓会総会を開催する様準備に入りたいと思っております。

北海道同窓会

支部長 菊地 晃二

支部長の佐藤満徳さんが、一昨年病氣のために亡くなられた。彼は能代高校を最も愛する一人です。北海道同窓会も、彼の人格で若い会員が増えることに期待していた矢先のことであった。

北海道同窓会の開催は、毎年秋に行われ、その時には能代から先生方も見えられ、学校の運動の成績のことや、進学の様子など、近況を報告していただいた。

最近の北海道同窓会の参加人数は、二十人に満たなく停滞気味である。北海道に能代高校の出身者がどの位おり、どこの地域でがんばっておられるか、一度名簿の作成が必要と考えている。時には、札幌にでも集まって、近況や高校時代のことなどを話し合うことも意味があるものと考えているところである。

「本の中の母校」

同窓会長 田中 仁純（第二十五期）

本を読んでいて母校のことにふれた文章に会うととてもなつかしいような気持ちになるものである。西村京太郎や内田康夫の全国各地でのサスペンスドラマには、秋田県や能代市が出てくる場面があるが、能代高校という校名は少ない。私の出会った本を紹介してみたいと思う。

後藤正治著の「遠いリング」、山本義弘は秋田市出身で色白で筋肉質のいい魅をした選手であった。背丈もかなりある。二十一才、三戦三KO勝で後楽園ホールで東日本新人王の決勝戦にのぞんだ。山本はヨネクラジム所属、秋田は体操競技の盛んなところである。彼も秋田南中学校の時代に体操部に所属し、三年のとき東北大会で鉄棒・跳馬及び個人総合優勝をしたというからよほど素質があったのだらう。道理で身が軽やかなはずである。そして請われて活躍した小野喬は能代高校出身であるが当然のように小野のようになってオリンピックに出るといいうのが周りの期待であり彼の夢であった。ところが一年のとき練習中に腰を痛めてしまった。腰の負傷は長引いた。学校も体操もいやになっていった。ある朝、秋田から能代に出る電車に乗り遅れ次の電車まで二時間近く待たねばならない、そしてホームで待っている間に気が変わった。能代でなく、逆方向の上野行きの列車に乗っていたのである……というものである。

次の一冊は、吉永小百合著「旅に夢みる」——小學生に戻ったように新鮮な気分です。西原小学校への道をたどりました。当時その道には、東京教育大学の体操部があり、校庭で鉄棒の練習などしているのを学校帰りによく見物しました。「鬼に金棒、小野に鉄棒」と言われた小野喬選手も、ここで練習して、オリンピックの金メダリストになったのです。直接能代高校という校名は出ていませんが、母校の先輩の名が日本のマドンナである小百合の著書に出ていたのでうれしくなる。

皆さんもこのような出会いがあると思いますので、ご存知の方は記事を寄せて下さい。

編集後記

「松陵」第十九号を発行するにあたり、原稿をお寄せいただきました皆様には心よりお礼申し上げます。

本号の編集には、教職員と同窓会広報部の役員が当りましたが、事務局の設置が年度途中のことでもあり、前号とはほぼ同じ編集方針に従っております。第二十号の編集に際しては、会報の内容について再検討し早い時期から準備に入る必要があります。

同窓会報「松陵」の紙面をさらに充実させるために皆様からの協力をお願い申し上げます。